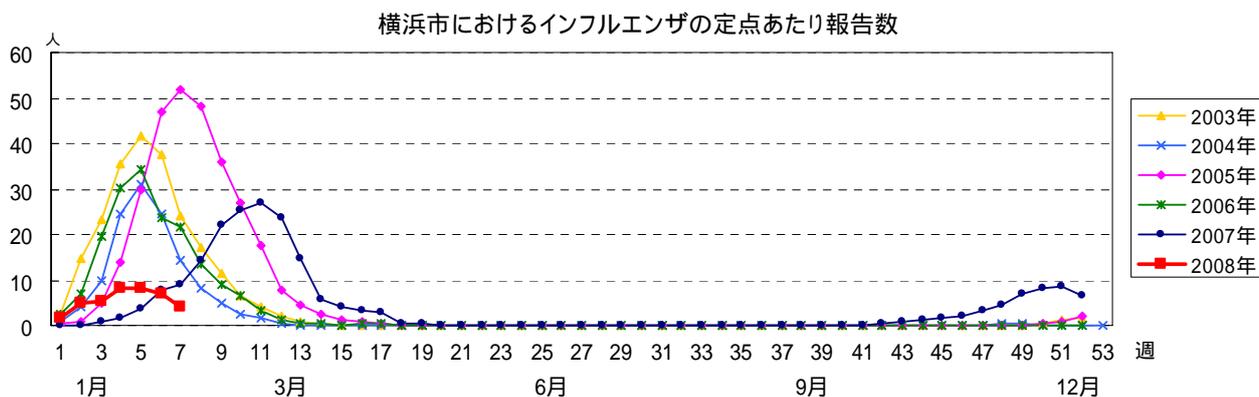


横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その 14)

1. 感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生報告状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

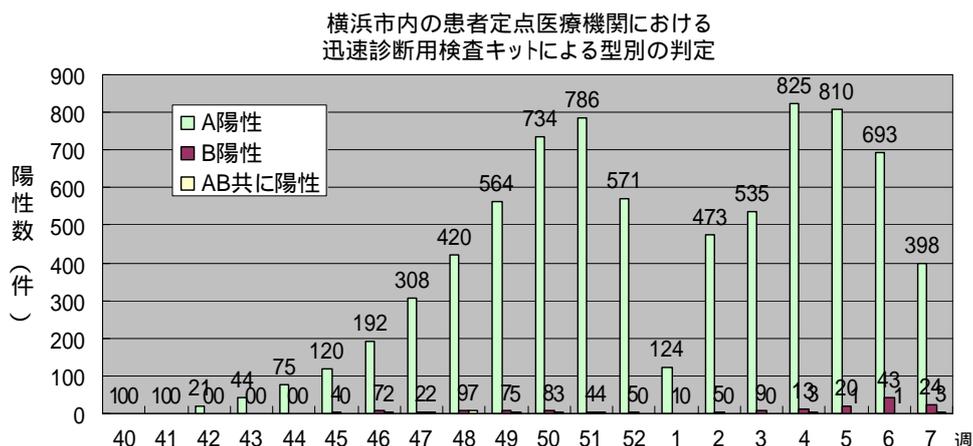
年末年始にかけて一旦減少し、第 2 週以降に増加しましたが、第 5 週をピークに再び減少し、第 7 週(2/11～2/17)の患者定点医療機関からの患者報告数は 513 人、定点あたり報告数は 4.28 と、過去 5 年間で最低の水準となっています。区別では、注意報レベルの「10」を超えている区はなく、都筑(8.0)、磯子(7.5)、栄(6.2)、緑(5.5)、港北(5.4)でした。



また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力でご報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定をグラフに示しました。第 7 週までの累計で、A 陽性 7695、B 陽性 161、AB 共に陽性 31 の報告がありました。

全国でも、年末年始に減少した後、2008 年第 2 週以降は増加に転じましたが、第 5 週をピークに減少傾向となっています。

都道府県別では、注警報レベルの「30」を超えている都道府県はなく、意報レベルの「10」を超えている県は 24 と前週よりも減少しています。



全国および神奈川県、東京都の定点あたり患者報告数(総報告数÷報告のあった定点医療機関数)

	第 3 週 (1/14～1/20)	第 4 週 (1/21～1/27)	第 5 週 (1/28～2/3)	第 6 週 (2/4～2/10)	第 7 週 (2/11～2/17)
全国	9.36	15.32	17.69	15.02	9.51
東京都	5.52	8.56	10.60	8.26	5.44
神奈川県	7.11	11.18	11.90	9.50	5.78
横浜市	5.29	8.15	8.19	7.01	4.28
川崎市	5.65	8.74	10.79	8.57	5.89
県域(横浜、川崎除く)	9.32	14.88	15.60	12.08	7.04

(2) 学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等の報告は、例年より早く 2007 年 11 月 6 日が初発で、12 月 7 日以降はありませんでしたが、2008 年 1 月 22 日からまた報告されています。累計では、幼稚園 8 校、小学校 4 校の計 12 施設になりました。区別では、港南(3 施設)、旭(2 施設)、緑(2 施設)、港北(1 施設)、青葉(1 施設)、都筑(1 施設)、戸塚(1 施設)、栄(1 施設)となっています。

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

2. 感染症発生動向調査等におけるウイルス検出状況

第5週の検体からタミフル耐性のウイルス(Aソ連型)が分離されましたが、第6週以降の検体からは、タミフル耐性のウイルスは、分離されていません。今回のタミフル耐性株の流行は、局地的なものにとどまったと考えられます。タミフル耐性株の流行を防ぐためには、症状が改善しても、タミフル内服中(一般的には5日間)は、会社や学校を休む必要があります。また、A香港型(AH3)が3例、B型が2例分離されています。

全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加しつつあります。

インフルエンザワクチンについて(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/influvaccine1.htm)
また、インフルエンザとRSウイルスの混合感染が、5例認められました。

(1) 病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス検出状況

月集計および週数	定点数	検体数	インフルエンザ検出状況					
			A型				B型	
			H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
			分離	PCR*	分離	PCR*		
2007年10~12月集計(第43週~第52週)	36	98	42	3				
2008年1月集計(第1週~第5週)	21	55	32		1			
2008年第6週	5	15	9					
2008年第7週	5	13	5		2		1	
2008年第8週	6	15	6	1			1	

*:ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

(2) 学校等における集団かぜからのウイルス検出状況

発生週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			遺伝子*		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2007年第45週~第49週 (11/5~12/9)	6	3小学校 3幼稚園	16(1)	11(1)			(5)		
2008年第4週(1/21~1/27)	1	1幼稚園	5	3			(2)		
2008年第5週(1/28~2/3)	1	1小学校	5	3			(2)		
2008年第8週(2/18~2/24)	1	1幼稚園							

検体数、検出数の()内は保護者で内数です。

*:ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

()内の数字は、NA遺伝子(ノイラミニダーゼ領域の遺伝子)でN1のみ検出していることから推定しています。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2008年2月22日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離状況は、AH1型1938例、AH3型122例、B型37例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

その他の感染症に関する情報は http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/ をご覧ください。